

ちとせ  
地域福祉ネットワーク通信  
Together ～一緒に～

平成 31 年 3 月 発行  
事務局：千歳市保健福祉部  
福祉課総務係  
☎ 24-0292  
Fax 27-3743

## 平成 30 年度ちとせ地域福祉ネットワーク会議を開催しました！

○日 時：平成 31 年 1 月 29 日（火）18:00～20:00

○テーマ：世代間交流

講演：「人が育つまちづくり ～ 多様な担い手が支えあう地域社会へ ～」

講師：札幌大谷大学社会学部教授 梶井 祥子氏

グループワーク：「世代間交流でつながる地域の絆」

○参加者：教頭会、公共職業安定所、民生委員児童委員連絡協議会、社会福祉協議会、女性団体協議会、福祉分野の業務や地域に密着した活動を行っている方々など多くの方にご参加をいただき、大変ありがとうございました。合計 23 名が参加されました。

### 【講演概要】

- ◆ 今、家族の原理（ケアし合う、助け合う）を地域社会に取り入れ、地域社会を再編成する必要がある。
- ◆ 平成以降大災害が立て続けに起こり、個々人は何もできないが、グローバルな地域でさまざまな問題を解決していこう、という意識が生まれた。
- ◆ 欧米は、結婚は早くなくてもいい、日本は早く結婚して自分の家族を持ちたい、という考え方・・・家族や人とのつながりを重視する傾向がある。
- ◆ 「家庭生活の満足度」について高校生、大学生を対象に調査した結果、「家族と暮らすこと」が 1 位、「家族が大事」という思いが読み取れる。
- ◆ 20 代、30 代の男女について、結婚生活を送る上での不安として「配偶者の親族との付き合い」がトップ・・・今の若者は異世代との交流が苦手なので、理解力・経験のある方が歩み寄るしかない。
- ◆ 子育てに対し負担・不安を抱えている人が 7 割以上・・・周りが支援していかなければならない。
- ◆ 「6 歳未満の子どもがいる世帯」は今や「夫婦のみの世帯」の 1/2、少数派としての悲哀を感じている。この割合が高かったときは子育て世代に寛容でなければならなかった。今我々は、子育て世代に対しどういう寛容性を見せられるか、を考えなければならない。
- ◆ 「身近な人々との社会的交流」から善意や友情が生まれる。人と人とのつながりこそが一番の財産、ソーシャル・キャピタル（人間関係資本）から信頼関係が生まれる。
- ◆ 知っている人だけでなく知らない人だけ貸して上げる、と言える人を育てる。知らない人のためにもなにかやってみようという気持ちがあるかどうか→子どもの頃からソーシャル・キャピタルを醸成していかなければならない。小さい頃に被支援体験を受けた人は醸成されている。ネットワークを広げるためには複数の活動をして欲しい、二つのものの間に何かの共通性を見出すことが大事である。
- ◆ 日本の子ども（15 歳）の 29.8% が学校で孤独を感じている・・・子どもも他とのつながりを強く求めている。



## 【グループワーク】「世代間交流でつながる地域の絆」

テーマ

～コミュニケーション・スキルを磨く～

## ※各班の主な発表内容

班	
A班	<p>①当班のある町内では民生委員が中心となり1泊2日で子どもキャンプを実施しているが、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間の年代層（3、40代）の大人が多忙のためなかなか参加できない現状がある</li> <li>・子どもの参加者が年々少なくなっている</li> </ul> <p>という二つの問題がある。しかし、一人遊びを好む子どもが多い中、ゲームという媒介を通して参加者同士が横のつながりを持つことができ、世代間交流につながる活動を実践できている。</p> <p>②民生委員が定期的に独居や高齢者宅等を回り声掛けしているが、その他に、散歩の最中に何気なく声を掛けるなどの「意図しない関わり」を通して地域との関わりを持つことが大事である。何気ない関わりから本人の「困り感」を周りの人が感じ取り、その後の対策に生かすことができる。</p>
B班	<p>町内会の問題として加入率の低さがある。町内によっては40%程度のところもある。年に一、二度役員が未加入者を対象に入会の勧誘を行っているが、加入の仕方が分からない人も少なくない。加入者を増やすため、住人に資源回収情報を提供するなどしている。</p> <p>ある町内ではタクシー運転手からの情報提供により独居老人が助かった、ということもあった。</p> <p>また、ある町内では見守り会を活発に行っており、併せて、町内の子ども達とのコミュニケーションを図る一環として、子ども達に勉強を教えることも検討している。</p> <p>独居老人に緊急事態が発生した場合、地域包括支援センターの緊急装置を利用し、民生委員のところに連絡が入るようにできればいいと思う。</p>
C班	<p>当班は「子どもサロン」について話し合った。</p> <p>ある町内では若い夫婦に子どもが生まれたらお祝い金を支給するようにしたところ町内会に加入する人が増え、今年の新年会でもこれまで参加しなかった人が手伝いに来てくれて、和気あいあいとした雰囲気であった。</p> <p>また、子育て中の母親で「ママ友会」になじめない人にとって、コミュニケーションを取り易い、心の拠り所としての小規模な子育てサロンが役立っている。</p> <p>千歳は転勤族が多く、必然的にそのような母親が多い傾向にあるので、そのようなサロンがいろいろなところにあるということを対象者に情報発信していくのも大事なことと思う。</p>
D班	<p>当班のある町内では、人と人とのつながりということで、民生委員が中心となり町内の人達がサロンに集まって来る。サロンでは美味しいものをえさにしながら、皆が自然と笑顔になってお互いを知り合う場となっており、こういったことが次の挨拶につながる。これからも細々とではあっても継続的にやっていきたい。</p> <p>参加者が楽しそうにしているところを写真や便りに載せ、町内の人達に広めている。若い世代はSNS、インスタグラムなどを使うので、そういう方法にコミットするのもいいと思う。</p> <p>併せて、資源回収に係る共同作業や、親身な人づくりとして、高齢者の見守りなどの自主的な活動も行っている。</p>
E班	<p>当班のある町内では「地域のサロン」として「カレーの輪」という取り組みを行っている。町内会員であれば誰でも参加が可能、安い料金でカレーを食べながら和気あいあいと交流している。友人を通して未参加の人をサロンに誘ってみるのもいいのではないかと思う。ただ、食中毒の心配があるため、町内会によっては食べ物を囲んでの取り組みについては実施に消極的である。</p> <p>また、ある町内では以前子ども神輿をやっていたが、子どもの数が減り一時取り止めた。しかし、町内で話し合った結果、参加者が少なくてもやろうということになりその後再開し現在に至っている。</p> <p>災害発生時に備え、町内会として要支援者等の情報をあらかじめ把握しておきたいが、一部情報提供を拒む住人がおり苦慮している。</p>



### 【まとめ】

住人を地域社会に取り込むにはそれぞれに役割を担ってもらうというやり方もある。強制ではなく自由度を与えて、こういうやり方でやってもらえるとありがたい、という風を持って行く。

サービスを受ける側と与える側を極力区別しないで、強制はせず融通させる、難しいが良い方法だと思う。住人に対しては、最初は楽しいか美味しいか、という単純な投げ掛けをし、そこから話を広げていけば良い。

以前、公園で花火をしていた若者に婦人が「楽しかったの？でも片づけて行ってね。」と声を掛けた。後で婦人が見にいったらきれいになっていた。「片づけて行ってね。」の前の「楽しかったの？」という何気ない一言が若者の心に響いた。これが大事である。

若い世代にはSNS、フェイスブック、インスタグラムなどを駆使してネットワークを広げて欲しい、そうすることによって異世代とつながっていければ良いと思う。



☆今後も、ちとせ地域福祉ネットワーク会議を実施します。

### 会議でわかりあえる4つのこと！

- ☆地域の福祉の現状をわかって。 (地域の福祉の状況を共有します)
- ☆地域で困っている人のこと (福祉ニーズ) をわかって。 (地域にある福祉課題や求められる支援の情報を共有します)
- ☆地域の誰が何をしているのかをわかって。 (地域に関わる他職種の人が集まるので、お互いの顔、お互いの役割がわかり、より連携がとり易くなります)
- ☆地域の住民ができることをわかって。 (福祉ニーズが広がる中で住民ができる助け合いの内容がわかります)